太平洋高水温情報（2016年 No.03）

平成28年10月21日　中央水産試験場 海洋環境グループ

道東太平洋では6月に引き続き水温が高めです。特に根室沖では、東に位置する暖水塊の影響により、例年よりも最大7℃程度水温が高くなっています。

道東太平洋では6月に引き続き、黒潮系暖水の影響により、表層から200m付近まで水温が高い状態です（図1、図2）。特に、147～148° E に暖水塊が分布しているため（図3）根室沖では例年よりも水温が最大7℃程度高くなっています。

道南太平洋では、昨年から暖水の影響と夏季の高気温の影響により、50m以浅の表層を中心に高い水温となっています（図1、図2）。今後、気温の低下に伴い水温は低下していくと考えられます。一方で50m以深には例年通りに津軽暖流水が分布しており、水温は例年並みとなっています（図2）。

太平洋北海道周辺海域では、東に暖水塊が分布しているため、今後もしばらく黒潮系暖水の影響が継続すると考えられます。一方で最高気温のピークは過ぎたため、今後は表層水温が極端に上昇する事は無いと考えられます。本年度の高水温情報は今回で終了となります。以降は全道版の海況速報をご覧ください（https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyou/sokuhou/index.html）。

（注）50m層平面図は平均値との比較のため，一部の観測点データを省略しています。そのため同時配信している海況速報の図とは一部異なります。

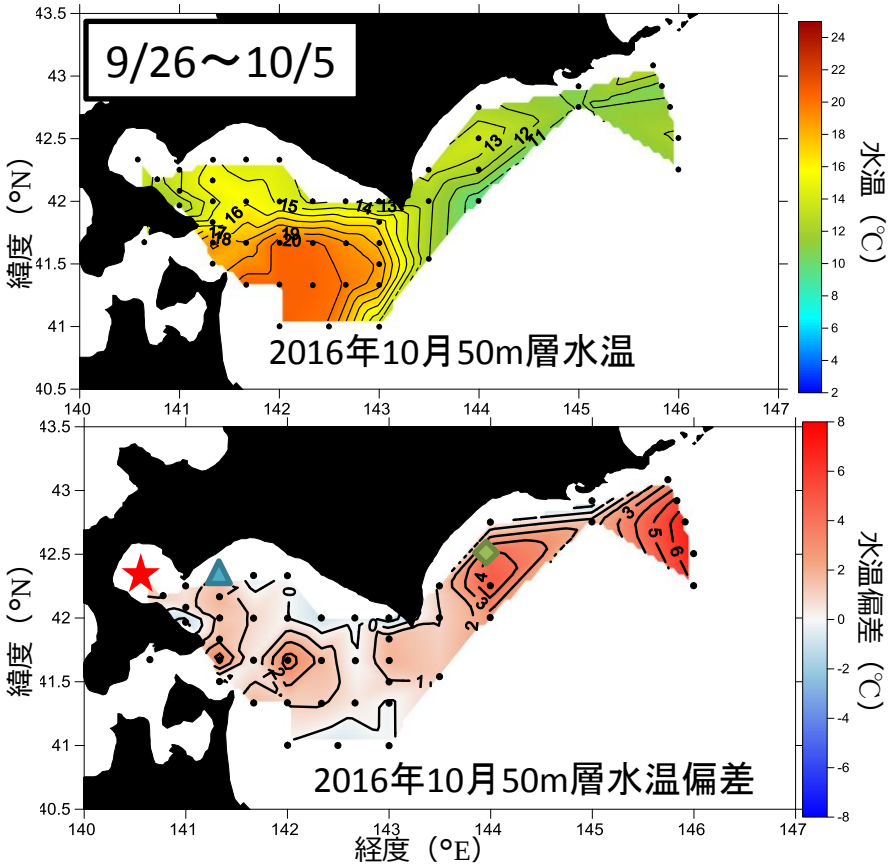

図1　2016年10月定期海洋観測による50m層の水温（上）、1989～2008年の平均値からの偏差（下）

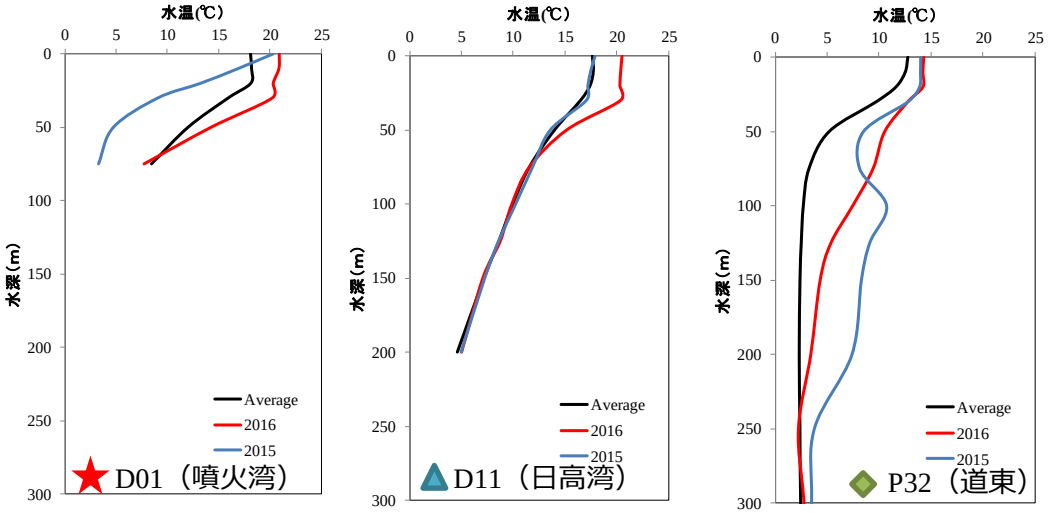

図2　各地の水温鉛直分布（D01噴火湾のみ平均値（黒）は10年間平均値、他は20年間平均値）
各点の位置は図1下を参照

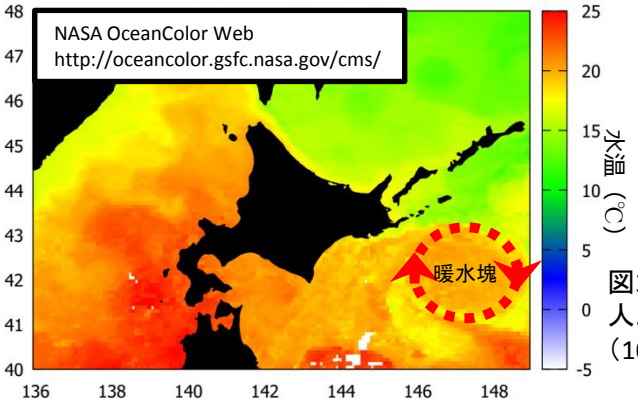

図3
人工衛星による海面水温
（10/1～10/9の平均値）

太平洋高水温情報（2016年 No.02）

平成28年8月25日　中央水産試験場 海洋環境グループ

道東太平洋及び噴火湾において、水温が例年よりもかなり高くなっています。

前回（6月:太平洋高水温情報No.01）に引き続き、黒潮系暖水の影響により、道東を中心に50m層水温が例年よりも2℃以上（最大8℃程度）高い状況です（図1下）。

道東太平洋では、**黒潮系暖水（50m層水温：9～12℃）が南東から張り出してきています（図1上）。暖水は200m以上の厚みを持って流入**しており、この海域では例年よりも表層から200m層までの水温が非常に高くなっています（図2右）。

日高湾では、この時期に大きく張り出す津軽暖流水の勢力が、例年よりもやや弱めのため、水温は例年並みとなっています（図1下、図2中央）。

噴火湾では、海面付近の水温は例年よりやや高い程度ですが、**50m以深では**例年ならば分布する親潮水がほとんど分布しておらず、**例年よりも4～5℃高い状況**です（図2左）。**下層の水温が高いため、今後気温が上昇した場合は、表層の水温も急激に上昇する恐れがあります。**

気象庁の長期予測では、**8月下旬の気温は平年よりも高め**で推移すると予想されています（http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/）。**北海道周辺では8月～9月にかけて水温が最も高くなります。**今後の気温と水温の推移には十分にご注意ください。

（注）50m層平面図は平均値との比較の為，一部の観測点データを省略しています。そのため同時配信している海況速報の図とは一部異なります。

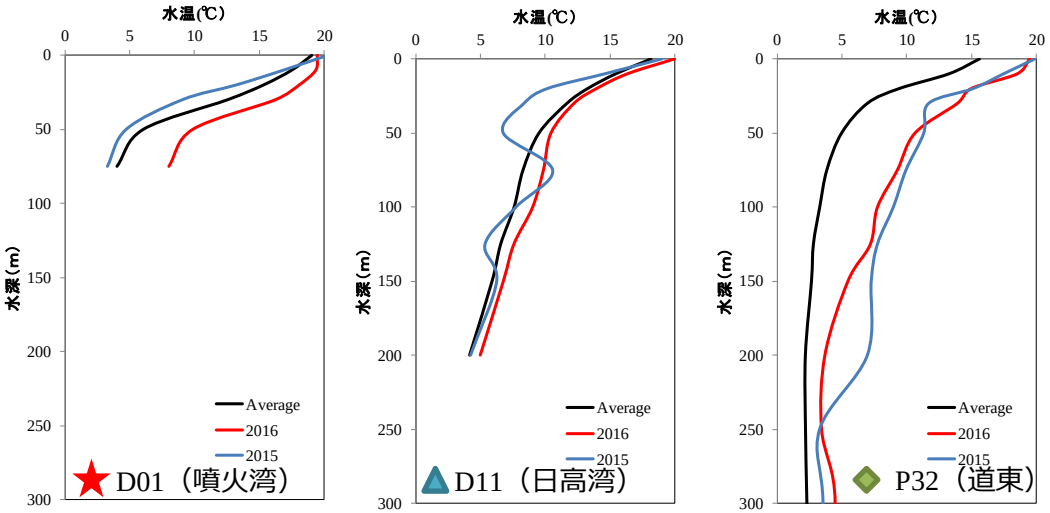

図2　各地の水温鉛直分布（D01噴火湾のみ平均値（黒）は10年間平均値、他は20年間平均値）
各点の位置は図1下を参照

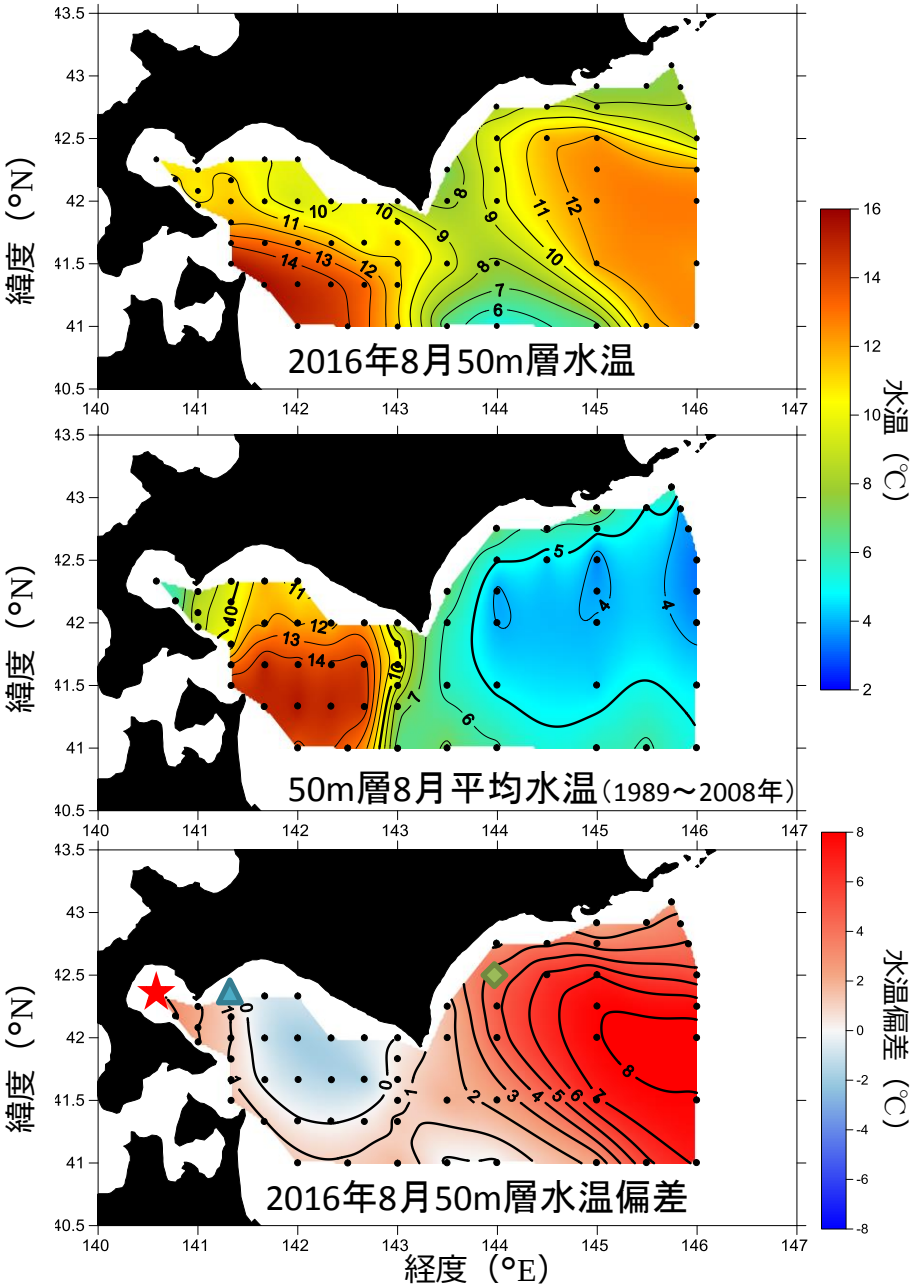

図1　2016年8月定期海洋観測による50m層の水温（上）、1989～2008年の平均値（中）、平均値からの偏差（下）

太平洋高水温情報（2016年 No.01）

平成28年6月21日　中央水産試験場 海洋環境グループ

道東を中心に太平洋の広い範囲で、海面～200m深の水温が、例年よりもかなり高くなっています。

現在、道東を中心として太平洋のほとんどの海域で、水温が例年よりも2℃以上（最大7℃程度）高い状況です（図1下）。これは昨年から引き続き、北海道南方に存在している暖水塊の影響だと考えられています。

道東太平洋では、沖合に50m深で例年よりも3～7℃程度高い暖水（10℃）が分布しており、例年分布している冷たい親潮水は、沿岸付近と根室沖に限られています（図1）。また一部沿岸には、沖合から暖水が海面～200m深までの厚みをもって流入しています（図2：P32）。それに伴い、今後は道東各地の沿岸水温も急変する可能性があります。

道南太平洋では、噴火湾周辺での50m以深の水温が高めで推移しており、春先に流入するはずの親潮水が少なかったと考えられます（図2：D01、D11）。そのため、夏季～秋季にかけて気温や日射が強まると、例年よりも表層水温が高めになる可能性があります。

道東・道南太平洋の高温傾向は、親潮の勢力が強まるまで継続すると考えられますが、今年は例年であれば親潮が最も拡大する4月になっても、面積は狭いまま経過しています（※）。今後の情報にご注意ください。

※（気象庁ホームページより、親潮面積（100m深水温5℃以下の面積）の時系列を参照：http://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/db/kaikyo/oyashio/oyashio_area.html）。

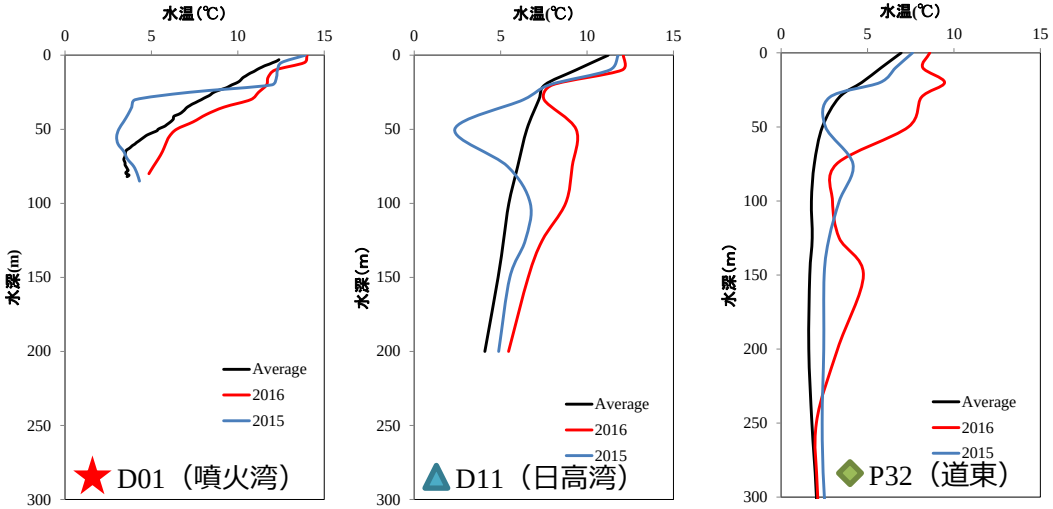

図2　各地の水温鉛直分布（D01噴火湾のみ平均値（黒）は10年間平均値、他は20年間平均値）
各点の位置は図1下を参照

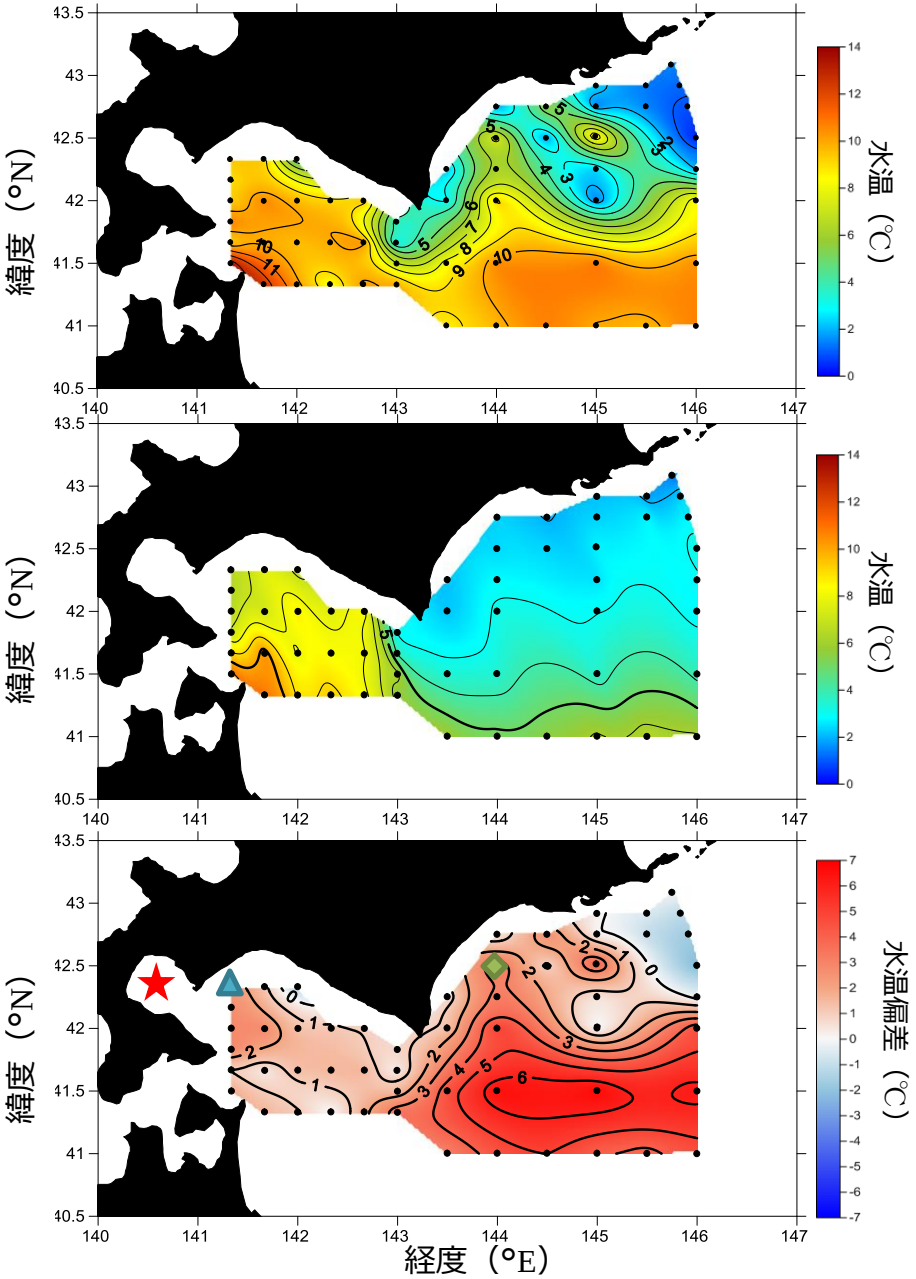

図1　2016年6月定期海洋観測による50m深の水温（上）、1989～2008年の平均値（中）、平均値からの偏差（下）